



霞ヶ関中だより

＜学校教育目標＞自主の誇りを持ち、未来を拓く力を持った生徒の育成
＜2月の生活のめあて＞進路の実現に向けて努力しよう。先輩になるための準備をしよう。

2月号 令和8年2月6日（金）

備える

校長 守岡 信一

昨年度は、関東大震災（9／1）から100年、阪神・淡路大震災（1／17）から、30年という節目でした。今年度も、青森県では最大震度6強（12月）、島根県でも最大震度5強（1月）があり、復興・復旧に向けた支援が急がれます。

今後に備えることも重要です。9月、政府の地震調査委員会は、マグニチュード8程度が想定される南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率をこれまでの「80%程度」から「60～90%程度以上」に見直しました。これは計算方法を改めたことによる影響があるようですが、いずれにしても「いつ起きてもおかしくない状況に変わりはない」ということです。埼玉県でも震度5強程度の強い揺れが起きうるとしています。

もし川越市内で震度5弱以上となった場合は、保護者への生徒引渡しを行うことになっておりますので、市のホームページ等をご確認の上、学校から特に連絡がなくても来校をお願いします。なお、学校は耐震補強工事が行われておりますので、倒壊等の危険性は低いと思われれます。引渡し時には保護者の方の学校到着まで、学校で生徒を安全に預かりますので慌てずにお越しください。

さらに来月、3月11日は東日本大震災が発生した日です。その日から15年です。中学3年の生徒が生まれた年度に起こった出来事ということになります。私は市内中学校4階教室で授業をしている時に大きな揺れを感じました。周期性の揺れのせいで気持ちが悪くなり、廊下で座り込む生徒が多数いたことを今でも鮮明に覚えています。

「サンセット・サンライズ」という映画（主演：菅田将暉、脚本：宮藤官九郎）を知っていますか？東日本大震災の被災地である宮城県沿岸部の小さな町を舞台に、震災後を描いたフィクションです。その映画の中で、震災後、東京からこの町に移住し、何か役立ちたいと葛藤する青年（菅田さん）に対して、地元の男性が「何もしなくていい」と声をかける場面があります。この言葉には、何か特別なことをするのではなく、被災地をいつまでも「忘れないで」「気持ちに寄り添って」「想像して」ほしいという願いが込められているように感じました。忘れられてしまう（風化してしまう）ということは何よりも辛いことです。どんなに小さいことでも自分ができることを考え、それぞれが実行していくことが大切です。

さて、3年生は私立高校入試がほぼ終了し、進路先決定の節目を迎えた生徒がいますが、下旬には県公立高校入試があります。入試だけでなく誰にでもつらい時があります。そんな時こそ次のステージへの備えを地道に行いましょう。そしてお互いを思いやり、想像し「人を尊ぶ」姿で、あたたかい学校をみなさん一人一人の力でつくってほしいと願っています。